

## 令和4年度第2回瑞浪市人権施策推進ネットワーク会議要旨

日時: 令和5年3月8日(水) 13時30分～15時05分

会場: 瑞浪市保健センター 3階大会議室

出席者(敬称略): 藤田敬一、安藤裕子、安藤雅哉、柴田洋子、野田順子、大西由美子、林 一子、  
渡邊 勝、小栗好文、木股恵子、木村聖可、加藤聖二、西尾正代、安藤友美、  
可児城二

欠席者(敬称略): 小木曾ひろみ

〈事務局〉 まちづくり推進部長 小木曾昌弘、生活安全課長 工藤雄一  
生活安全課人権啓発係 永田智恵、渡邊栄子

議題: (1) 令和4年度 人権施策推進事業実施報告(案)について  
(2) 令和5年度 人権施策推進事業実施計画(案)について  
(3) 意見交換

### 内容

(進行: 課長)

#### 1. まちづくり推進部長あいさつ

(省略)

#### 2. 瑞浪市人権施策推進ネットワーク会議参加者の変更について

- ・事務局により、今年度から新しく代わられた方のみ紹介

#### 3. 座長あいさつ

(座長) こうして皆様とお会いできたことを本当に嬉しく思います。私が岐阜大学教育学部に非常勤講師として招かれたのは、1970年10月でした。それから来年で50年、県内各地を見て回りました。その中でたくさんの方のことを教えてもらい、学んできました。話を聞いてほしいと思うのなら、話を聞いてほしいと願う者が、話を聞いてもらえるように努力するしかありません。身近なところから深く感じ、広く考える。ぜひとも瑞浪市の人権感覚が広がり深まるために、皆様のお力をお借りしたいと思っております。

(課長) ありがとうございました。

それでは、これから議事に入らせていただきます。議事の進行については、本会議要綱第4条の規定に基づき、藤田座長にお願いしたいと思います。藤田座長、よろしくお願ひいたします。

#### 4. 議事

##### 議事1 令和4年度 瑞浪市人権施策推進事業実施報告(案)について

(座長) 事務局説明をお願いします。

(事務局) 資料に基づき説明

(座長) ありがとうございました。議題1について、ご意見、ご質問ありませんか。

岐阜県もちょっといい話を集めていて、冊子ではなくパンフレットにして紹介しています。岐阜県や岐阜市は広報の中で紹介はしていますが、あれだけの冊子を編集、作成、配布しているのは瑞浪市だけです。瑞浪市に感謝しています。

(参加者) ちょっといい話を読んでもらうことが一番いいので、医療機関や喫茶店に配布するのは良いと思います。

(参加者) 小中学校にも配布していただいた冊子を図書館に持っていきましたら、いままでの冊子がずっと飾ってありますので、図書館でちょっと読みたくなって読んでいる子もいますし、私が持って行った時にも「校長先生、今年の冊子が来たの？」と声をかけてきた子がいました。どこの学校にも冊子を置いたコーナーがあり、手にして読むということが伝統のようになっているのを嬉しく思っています。

(座長) ほかにご意見、ご質問はありませんか。ご質問が無いようですので、議題1は承認されました。

## 議事2 令和5年度 瑞浪市人権施策推進事業実施計画(案)について

(座長) 事務局説明をお願いします。

(事務局) 資料に基づき説明

(座長) ありがとうございます。議題2について、ご意見、ご質問などありますか。

私の感覚でいうと、「人権」というと肩に力が入ってしまいがちになるのではないのかと感じます。もう少しゆったりと日常生活の言葉、自分の言葉で語り合えるといいと思います。

ほかにご意見、ご質問はありませんか。無いようですので、議題2は承認されました。

## 議事3 意見交換

(座長) 何でもいいので、ご意見等ありましたらお願いします。

(参加者) 大学生の娘が二人いまして、小学生の時から啓発事業が毎年あったと思いますが、あまり目も通さず、もったいないことをしたなど反省しており、今年是人権書道展やちょっといい話に応募してみようと思いました。

(参加者) 子育て支援課で、虐待を受けた子や家庭環境に恵まれない子を対象として支援しています。今年、いろいろあった中で、外国人の虐待が何件かありまして、瑞浪市の実態を調べたところ、この10年で外国人の登録は250人増えていますが、瑞浪市の総人口は3,812人減っている状況です。つまり瑞浪市の日本人人口は減っているが外国人が増えていきます。その中で外国人の虐待があり、話を聞いたところ、子供に対する考え方が、子どもも労働力のひとつ、体罰はしつけのひとつであると認識されています。親もそのように育てているので、虐待・体罰を容認している雰囲気が出ていました。日本は虐待についてシビアであることを伝えると、ある父親は虐待ということを知らなかったと言われました。今後も外国人の方が増えてくると思うので、「虐待」や「子どもの人権」について、虐待を防止するリーフレットの外国語版を作成し、配布する必要があると考えます。

(参加者) 人権擁護委員として2期目なのですが、8人の委員がそれぞれ役割分担をして、年に1回各幼稚園を訪問しています。子ども達もしっかり真剣に話を聞いてくれるので、委員も毎年、一生懸命頑張っています。

(参加者) 男女共同参画社会推進会議の委員をしております。この会議でいろいろな立場の人や有識者の方の話を聞いて、家庭事情や子どもの状況を聞くことで、自分は今まで何も関わってこなかったが、何かちょっとしたことでも出来たらいいなという気持ちになりました。地域の身近なところから、自分の出来ることを地域のお年寄りや子ども達に何かお話でも出来たらと思います。

(参加者) 保護司会ですが、私たちが関わっている方々は、仮退院や仮釈放の方を対象に、月に1回程度面接をしています。これから社会復帰をするのに向き合っていかなければいけないのが、就労、お仕事なのです。経済面が難しく、協力企業主という方がいるのですが、まだまだ

その獲得が少ないと思います。就労先が見つからないことが、再犯に繋がる一番の要因となっています。罪を犯さないのが一番なのですが、やはり背景に家庭環境が影響しているのだと痛感しています。

(参加者) 更生保護女性の会の会員です。私たちは、通学路等で挨拶運動を行い、子供たちを見守っています。挨拶をしてくれる子もいれば、こちらから「おはよう」と声かけても、知らん顔をして行ってしまう子もいます。下を向いて歩いていく子に「顔上げて行きなさい」と言うのですが、そういう子は人と会いたくないのではないかという感じを受けます。私も若い時は、子どもを大きな声で叱ったりしたことがありましたが、それは子どもの人権を無視していたと、すごく勉強になりました。

(参加者) 四国のお遍路を回るという誓いを立てて、去年で全部回ることが出来ました。お寺を回った時にお祈りをする中で、自分は穏やかで軽率な行動は取らない、大らかな一日にするということを勉強させてもらいました。やはり人権は家庭生活です。奥さんに食事を毎食作ってもらうので感謝が大事だと思いました。とにかく穏やかな生活を過ごすのが大事だと思います。

(参加者) 民生委員・児童委員を3期9年やらせていただきました。こういう機会の中でいろいろ自分なりに勉強できたと思います。コロナ禍でなかなか活動ができない中、今年の夏に、ある学校の校長先生から、家庭内暴力の恐れがある子がいると相談を受け対応をしました。夏で子どもが半袖を着ていたのも、たまたま学校の先生が、体に体罰のような跡があるのに気づいて相談したということでした。その後、そんなに長くかからずに穏便に話ができました。いろいろな体験をし、勉強になりました。

(参加者) 私は家庭児童相談員です。ちょっといい話の冊子のことですが、話の一つひとつが温かく、こんなことに気付ける子ども達は本当に素晴らしいと思います。日常では流されてしまうことです。これを書くことで再認識が出来て心が温かくなる冊子だと感じました。いま、コロナ禍でマスクの着用により、人の表情がなかなか分かりません。接触もあまりしないということで子ども同士も友達と遊ぶ機会が減ってきており、スマホやユーチューブ等、ネット社会の中で過ごしていますが、やはり顔を見て接触しながら過ごせる日が返ってきてほしいです。私も顔の分かる関わりを大事にしていきたいと思います。

(参加者) 知的障害相談員を12年やらせていただいて、今年初めて相談日を設けていただくことが出来ました。ある母親が、子どものことで相談に来られました。その子は20歳ぐらいで、「双極性障害」という病気で、躁になったり鬱になったりすることでした。どのように接したらいいか分からないと相談にいらっしやいました。自立させた方がいいのではないかと相談所の指導を受けて、一人で生活をさせてみましたが、家具等を購入し、貯金を全部使ってしまったようです。母親は、自立させた方がいいのか、それとも一緒に生きていった方がいいのかとすごく悩んでいました。母親と部屋から出ると、外で待っていた子どもから、「先生、僕のお母さんすごいお母さんなんだよ。僕のお母さんは、世界で一番いいお母さん。僕大好き。」と言われたのです。私はこのお母さんだったらこの子と一緒に生きていけると思い、お母さんに「素晴らしい育て方をしているから大丈夫だよ。」と伝えました。上手に子どもを育てていると思いました。

(参加者) 瑞浪北部地域包括支援センターで、普段は高齢者の相談の仕事をしています。仕事の話ではないですが、最近これはどうかと思うことで、皆さんご存じかと思いますが、回転寿司で湯呑をなめて、その画像を出されたことがニュースになりました。もちろんその行為はいけないことだし、それを広めることも良くないですし、またそれを日本中から叩くこともいけないことだし、それで個人を特定することもいけないし、ダメなことばかりですよ。何が問

題なのか、複雑な問題なのか、単純な問題なのか、どこから考えればいいのかという感想を持つのですが、委員の皆さんはどう考えているのか伺いたいです。

(参加者) 瑞浪小学校の校長で、小中学校の代表で来ました。中学校は今日卒業式です。小学校は3月23日に控えていまして、子ども達は学校に来るのはあと10日となっています。12月までは卒業式の合唱は難しい状況だったのですが、三学期に入って少しずつ感染対策が緩和され、マスクをしたままなら歌わせてあげたいということで、卒業式や学級解散式で、中学校3校とも合唱をやっていることと思います。小学校でも3年ぶりに卒業生がマスクをしなくてもいい卒業式になるのですね。子ども達が「校歌を歌いたい」と言うので、みんなで歌うことにしたのですが、やっぱり子ども達は一つのことをみんなと一緒にやるということが嬉しいですし、それがまた、心に残るのかなと思い、今年は出来ることが増えてありがたいと思っています。6年生を送る会でも、今年はみんなで法被を着てソーラン節を踊って、それはもうすごく笑顔でした。私たちも「この子、こんな顔していたんだ」「こんな満面の笑みがあるんだ」と見せてもらい嬉しかったです。挨拶のことですが、児童会でアンケートを取ると、面倒くさいとか恥ずかしいという意見があります。そこもだんだんと自分らしさを出せるようにということで、地域ぐるみの挨拶なども、どの小中学校でも大事にしていこうと思っていますのでよろしくお願ひします。先生が言われた「身近なところから深く考える」。ここが、学校生活の中で子どもたちも、教師も大事にするところだと勉強になりました。

(参加者) 瑞浪市で弁護士をしています。さまざまな業務をしていますが、外国人のことに関心がありまして、外国人のしつけや考え方が違うということで、虐待についての考え方やごみ処理の考え方などの問題があると思います。ごみの問題は、地域の人たちにとって、違う処理をされると困るということですが、日本に来て住んでいるので、日本語を教えてあげるとか文化を教えてあげる、共有していくなどサポートしていけたらいいのではないかと思います。以前のことで、外国人の方で幼いころから日本にいて、日本語の取得に時間がかかって大変な思いをしたが、地域の人や学校の先生が教えてくれて、一人は行政書士、もう一人は弁護士になって、それも地域の人が支えてくれたから今の私がある。という話を聞いたことがあり、一人でも自分の味方がいるというのはすごくその人の人生にとって大きいと思いました。

(参加者) 岐阜地方法務局多治見支局で総務課長をしております。法務局ですが、おそらく一番難しく人権を考えているところなのかなと思います。法務局でしていることを紹介しますと、人権侵害をされたという人から申告があると、人権救済という手続きに入りまして、相手の加害者が行ったことに違法性があるかを検証して、違法性があれば人権侵害、無ければ人権侵害ではないということを相手に伝えるということを行っています。しかし、そのように難しく考えてしまうと人権の啓発にならないので、一般の人に啓発をするには、人権とは人と人との関係なので、お互いに思いやりがあれば解決するのではないかという考え方で、人権を侵害するような言葉を無意識に言ってしまったとしても、それが嫌なことなのだと分れば次は言わなくなる、思いやりの心があればそういうことがなくなるのではないかというところで啓発活動をしています。一つ紹介しますと、人権擁護委員にお手伝いいただきながら、小学校の児童に花を育ててもらっています。花はお世話をしないと枯れてしまうので、思いやりの心を育てましょうという活動です。思いやりの心を持つことで人権侵害が無くなるのではないかということで啓発しています。

(座長) 私は今84歳ですが、忘れられない恩師がいまして、京都市で教員をしてみえました。私が今一番気になっていることは、教員のなり手が無いということ。そして労働が厳しいということです。一人の素晴らしい教員に教わった人間として、教育を何だと思っているのかとい

う思いになります。39歳で教員になって、今49歳の方が朝日新聞の投書なさっていました。「ぜひとも教師になってくれ」と。この投書で教師を目指してほしいと必死の思いで朝日新聞に投書しているのを、私はブログに挙げたのですが、素晴らしいことだと思います。その教師が持っているこの素晴らしさが、からかいの対象になってしまうことがある。この国はどこかダメになっていると思います。

(参加者) 先程、思いやりの心があれば、人権の基本は守れるのではないかと言われましたが、この頃、子どもと話しているのが、誰でも大なり小なり思いやりの心はあっても、それを相手に表すかどうか、勇気を出して相手に伝えるかどうかというところが差になってくるような気がします。相手に勇気を出して言葉をかけたり、行動したりすることでようやく伝わって、それがまた自分に戻ってくるというところを子ども達に大事にしてほしいなと思います。思いやる勇気を子ども達に話していこうと思っています。「自分のことを大切に思っていてくれる」という安心感がある子は、思いやりのある心が育ってくれるのではないかと子どもたちを見えています。教員のことを考えてくださって、ありがとうございます。

(座長) 公共広告機構が流した番組があり、高校生が石段を昇っていくのですが、そこにおばあさんが、右手に荷物を持って左手で手すりを持って昇っていて、その高校生は、一度は通り過ぎるのですが、戻ってきて、荷物を受け取って右手でそのおばあさんの背中を優しく撫でるのですよ。その時に詩が流れるのです。「心は見えないけれど心遣いは見える。思いは見えないけれど思いやりは見える」。宮澤しょうじという元高校の先生が作った詩です。それをテレビで見ると、すぐに宮澤しょうじさんの詩集を買いました。静岡県の小学校でこの詩を紹介して、この心遣いの「遣い」と、思い遣りの「遣り」は、漢字が一緒だよと言うと、6年生の子が手を上げて、「遣唐使の遣です」と言いました。「遣わす」という漢字。心遣いとしては見えないかもしれないけれど、相手のところへ持っていけば見えるかもしれない。思いは見えないけれど思いやりという形で相手のところに遣わせていけば届くかもしれない。私が人権の話をするときに心に言い聞かせていることは、やはり、話を聞いてほしいのなら、話を聞いてほしいと願う自分が努力するしかない。聞けと言って聞いてくれることはないのです。だから私は、身近なところから深く感じ広く考えるというのは、天高く舞い上がるなど自分に対する戒めの言葉なのです。

(参加者) いつの新聞か分かりませんが、日本人の中に中国に対して良い思いを抱いていない割合が7割ぐらいあったかと思うのですが、それを見た時に自分もそうだったのです。その辺で外国人が集まっていたりすると、ちょっと怖いなど感じることもあるなと思いました。自分の中にも差別というものが無意識のうちにあると感じます。

(座長) それは大切なことですね。自分の心の中にある偏見に気づくということを紹介してくださったのですが、誰にでもあることです。

こんなに教育や教員に対して誹謗中傷されることがまかり通るのは許せません。教育という仕事は自分の生き方そのものに関わることだと思います。

議事はすべて終わりましたので、進行を事務局にお返しします。

(事務局) 藤田座長、スムーズな議事の進行をありがとうございました。

それでは続きまして、「5. その他」に移ります。

## 5. その他

《事務局からの連絡事項》

- ・ちょっといい話12
- ・「デートDVを知ろう」のパンフレットについて

(事務局) 本日の会議、全体を通してのご質問やご意見などございませんか。

本日の議事録につきましては、後日、郵送にて皆様にお送りしますので、ご確認をお願いいたします。

また、委員の皆様におかれましては、2年間、各組織の代表として、ネットワーク会議にご出席いただき、誠にありがとうございました。

今後とも、それぞれのお立場にて、瑞浪市の人権施策に対して、ご理解・ご協力をお願いいたします。

それでは、これもちまして、「令和4年度 第2回瑞浪市人権施策推進ネットワーク会議」を閉会します。長時間にわたりお疲れさまでした。

お帰りの際は、お忘れ物のないよう気を付けてお帰りください。

**閉会**